製品安全データシート

改定日: 2021年4月1日

1. 化学物質等及び会社情報

1-1. 製品名称

・ NaI

1-2. 製品番号

・ 1001401

1-3. 推奨用途及び使用上の制限

・ 試験研究用

1-4. 供給者の詳細

・ 会社名 ： 株式会社エムピーバイオジャパン
・ 住所 ： 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-7-14 セブンビル4F
・ 電話番号 ： 03-6667-0730
・ FAX番号 ： 03-6667-0733

1-5. 緊急電話番号

・ 03-6667-0730

2. 危険有害性の要約

2-1. 化学物質または混合物の分類

2-1-1. 物理化学的危険性

・ 酸化性液体 ： 分類できない
・ 金属腐食性物質 ： 分類できない

2-1-2. 健康に対する有害性

・ 急性毒性（経口） ： 区分外
・ 急性毒性（経皮） ： 分類できない
・ 急性毒性（吸入：気体） ： 分類対象外
・ 急性毒性（吸入：蒸気） ： 分類できない
・ 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） ： 分類できない
・ 皮膚腐食性・刺激性 ： 区分2
・ 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 ： 区分2A
・ 呼吸器感作性 ： 分類できない
・ 皮膚感作性 ： 分類できない
・ 生殖細胞変異原性 ： 分類できない
・ 発がん性 ： 分類できない
・ 生殖毒性 ： 分類できない
・ 授乳に対する影響 ： 分類できない
・ 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） ： 区分3（気道刺激性）
・ 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） ： 分類できない
・ 吸引性呼吸器有害性 ： 分類対象外

2-1-3. 環境に対する有害性

・ 水生環境急性有害性 ： 分類できない
・ 水生環境慢性有害性 ： 分類できない
・ オゾン層への有害性 ： 分類できない

【GHSラベル要素】

2-2. 注意書きを含むGHSラベル要素

2-2-1. 絵表示

・ 右に表示：

2-2-2. 注意喚起語

・ 警告

2-2-3. 危険有害性情報

・ 皮膚刺激 (H315)
・ 強い眼刺激 (H319)
・ 呼吸器への刺激のおそれ (H335)

2-2-4. 注意書き

1) 安全対策

・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
・ 取扱後は手をよく洗うこと。(P264)
・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

2) 応急処置

・ 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。医師の診断/手当てを受けること。(P302 + P352 + P313)
・ 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。(P322 + P313)
・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。(P304 + P340 + P312)
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。（P312)
・ 眼に入った場合: コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。水で数分間注意深く洗うこと。医師の診断/手当てを受けること。(P305 + P338 + P351 + P313)
・ 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。(P337 + P313)
・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用す場合には洗濯をすること。(P362)

3) 保管

・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403 + P233)
・ 施錠して保管すること。(P405)

4) 廃棄

・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

2-3. 結果として分類されないその他の危険有害性

情報なし。

3. 組成及び成分情報

3-1. 化学物質

本製品は単一化合物ではない。

3-2. 混合物

本製品は以下の成分を含有する混合物（水溶液）:

化学名	CAS RN	含有量 (w/w)
ヨウ化ナトリウム	7681-82-5	50～90%
精製水	7732-18-5	10～50%

4. 応急措置

4-1. 必要な応急措置の説明

4-1-1. 飲み込んだ場合

・ 口をすすぐこと。
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-2. 皮膚に付着した場合

・ 皮膚を多量の水で洗うこと。
・ 医師の診断/手当てを受けること。

4-1-3. 吸入した場合

・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-4. 眼に入った場合

・ 水で数分間注意深く洗うこと。
・ コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・ 医師の診断/手当てを受けること。

4-2. 最も重要な急性と発症の遅い症状/影響

・ 情報なし。

4-3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

・ 情報なし。

5. 火災時の措置

5-1. 適切な消火剤

・ 二酸化炭素、粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂類。

5-2. 化学品から生じる特定の危険性

・ 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
・ 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

5-3. 消防士用の特別な防具と予防措置

・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

6-1. 人への予防措置、防具、および応急処置法

・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
・ 関係者以外の立入りを禁止する。

・風上から作業する。

6-2. 環境上の予防措置

・環境中に放出してはならない。

6-3. 封じ込めと流出物洗浄の方法および用具

・粉塵が飛散しない方法で空容器に回収する。漏出した場所は水で洗い流す。
・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管

7-1. 安全な取扱のための予防措置

7-1-1. 技術的対策

・個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
・保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
・よく換気された場所で使用する。

7-1-2. 安全取扱い注意事項

・眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
・本製品に接触したり、これの吸入、飲み込みをしてはならない。
・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
・取扱い後はよく手を洗うこと。
・環境への放出を避けること。

7-2. 混触危険性を含む、安全な保管条件

7-2-1. 適切な保管条件

・15～30℃にて換気の良い場所で貯蔵すること。
・直射日光・高温・火気を避けること。
・施錠して貯蔵すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8. 暴露制御および保護措置

8-1. 管理パラメーター

化学名	管理濃度	許容濃度 (TLV-TWA)
ヨウ化ナトリウム	未設定	0.01ppm (*as inhalable fraction and vapor)

8-2. 適切な工学的管理方法

・この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

8-3. 個人保護措置

・呼吸器の保護具　：適切な呼吸器保護具を着用すること。
・手の保護具　：適切な保護手袋を着用すること。
・眼の保護具　：適切な眼の保護具を着用すること。
・皮膚および身体の保護具　：適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

・外観　：無色～淡黄色液体
・臭い　：特異臭
・臭いの閾値　：データなし
・pH　：データなし
・融点/凝固点　：データなし
・分解温度　：データなし
・初留点と沸点範囲　：データなし
・引火点　：データなし
・蒸発速度　：データなし
・火炎燃焼性　：データなし
・爆発限界（上限/下限）　：データなし
・蒸気圧（20℃）　：データなし
・蒸気密度　：データなし
・相対密度　：データなし
・溶解度　：本製品は水溶液
・n-オクタノール/水分配係数　：データなし
・自然発火温度　：データなし
・分解温度　：データなし
・粘度　：データなし

10. 安定性及び反応性

10-1. 反応性

・危険な重合反応は起こらない。

10-2. 化学的安定性

・製品は推奨保存条件下で化学的に安定している。

10-3. 危険有害反応可能性

・情報なし。

10-4. 避けるべき条件

情報なし。

10-5. 混触禁止物質

情報なし。

10-6. 有害な分解生成物

・情報なし。

11. 有害性情報

11-1. 成分の健康有害性情報

11-1-1.ヨウ化ナトリウム

・急性毒性　　：LD_{50} = 4,340mg/kg (rat, oral)
・皮膚刺激性　：Draize test, rabbit, skin: 500mg/24H Moderate
・眼刺激性　　：Draize test, rabbit, eye: 100mg/24H Moderate

12. 環境影響情報

12-1. 成分の環境有害性情報

・混合物としての情報なし。

13. 廃棄上の注意

13-1. 廃棄方法

13-1. 廃棄方法

・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

13-2. 汚染容器および包装

・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

14-1. 国連番号

・該当なし。

14-2. 使用者のための特別予防措置

・輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・重量物を上積みしない。

15. 適用法令

15-1. 適用法令対象成分

15-1-1. ヨウ化ナトリウム

・労働安全衛生法：名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、政令番号：別表第9の606）
・労働安全衛生法：名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、政令番号：別表第9の606）

16. その他の情報

16-1. HMIS表示

・健康障害の危険　：2（危険）
・火災の危険　：0（不燃）
・反応性　：0（安定）

16-2. NFPA表示

16-3. 参考ウェブサイト

・経済産業省
・厚生労働省
・（独）製品評価技術基盤機構

※ この製品安全データシートは、現時点で入手できる資料・文献等に基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅した訳ではありません。従いまして、取り扱いには十分ご注意ください。また、記載内容はあくまでも情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

製品安全データシート

改定日: 2021年4月1日

1. 化学物質等及び会社情報

1-1. 製品名称

・ TBE Modifier

1-2. 製品番号

・ 1001403

1-3. 推奨用途及び使用上の制限

・ 試験研究用

1-4. 供給者の詳細

・ 会社名 ： 株式会社エムピーバイオジャパン
・ 住所 ： 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-7-14 セブンビル4F
・ 電話番号 ： 03-6667-0730
・ FAX番号 ： 03-6667-0733

1-5. 緊急電話番号

・ 03-6667-0730

2. 危険有害性の要約

2-1. 化学物質または混合物の分類

2-1-1. 物理化学的危険性

・ 金属腐食性物質 ： 分類できない

2-1-2. 健康に対する有害性

・ 急性毒性（経口） ： 区分外
・ 急性毒性（経皮） ： 分類できない
・ 急性毒性（吸入：気体） ： 分類対象外
・ 急性毒性（吸入：蒸気） ： 分類できない
・ 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） ： 分類できない
・ 皮膚腐食性・刺激性 ： 区分1A
・ 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 ： 区分1
・ 呼吸器感作性 ： 分類できない
・ 皮膚感作性 ： 分類できない
・ 生殖細胞変異原性 ： 分類できない
・ 発がん性 ： 分類できない
・ 生殖毒性 ： 分類できない
・ 授乳に対する影響 ： 分類できない
・ 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） ： 分類できない
・ 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） ： 分類できない
・ 吸引性呼吸器有害性 ： 分類対象外

2-1-3. 環境に対する有害性

・ 水生環境急性有害性 ： 分類できない
・ 水生環境慢性有害性 ： 分類できない
・ オゾン層への有害性 ： 分類できない

【GHSラベル要素】

2-2. 注意書きを含むGHSラベル要素

2-2-1. 絵表示

・ 右に表示：

2-2-2. 注意喚起語

・ 危険

2-2-3. 危険有害性情報

・ 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (H314)
・ 重篤な眼の損傷 (H318)

2-2-4. 注意書き

1) 安全対策

・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。(P260)
・ 取扱後は手をよく洗うこと。(P264)
・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)

2) 応急処置

・ 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。（P301+P330+P331）
・ 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワー

で洗うこと。(P303+P361+P353)
・眼に入った場合：コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。水で数分間注意深く洗うこと。(P305 +P351+ P338)
・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304 + P340 + P312)
・直ちに医師に連絡すること。(P310)
気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。(P363)

3) 保管

・施錠して保管すること。(P405)

4) 廃棄

・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

2-3. 結果として分類されないその他の危険有害性

情報なし。

3. 組成及び成分情報

3-1. 化学物質

本製品は単一化合物ではない。

3-2. 混合物

本製品は以下の成分を含有する混合物（水溶液）：

化学名	CAS RN	含有量 (w/w)
精製水	7732-18-5	50～55%
酢酸	64-19-7	2.5～10%
その他	-	＜47%

4. 応急措置

4-1. 必要な応急措置の説明

4-1-1. 飲み込んだ場合

・口をすすぐこと。
・気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-2. 皮膚に付着した場合

・多量の水と石鹸で洗うこと。
・直ちに医師に連絡すること。

4-1-3. 吸入した場合

・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-4. 眼に入った場合

・水で数分間注意深く洗うこと。
・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・直ちに医師に連絡すること。

4-2. 最も重要な急性と発症の遅い症状/影響

・情報なし。

4-3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

・情報なし。

5. 火災時の措置

5-1. 適切な消火剤

・二酸化炭素、粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂類。

5-2. 化学品から生じる特定の危険性

・火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
・消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

5-3. 消防士用の特別な防具と予防措置

・移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
・消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
・消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

6-1. 人への予防措置、防具、および応急処置法

・作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
・漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
・関係者以外の立入りを禁止する。
・風上から作業する。

6-2. 環境上の予防措置

・環境中に放出してはならない。

6-3. 封じ込めと流出物洗浄の方法および用具

・ 粉塵が飛散しない方法で空容器に回収する。漏出した場所は水で洗い流す。
・ 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管

7-1. 安全な取扱のための予防措置

7-1-1. 技術的対策

・ 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
・ 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
・ よく換気された場所で使用する。

7-1-2. 安全取扱い注意事項

・ 眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
・ 本製品に接触したり、これの吸入、飲み込みをしてはならない。
・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
・ 環境への放出を避けること。

7-2. 混触危険性を含む、安全な保管条件

7-2-1. 適切な保管条件

・ 15～30℃にて換気の良い場所で貯蔵すること。
・ 直射日光・高温・火気を避けること。
・ 施錠して貯蔵すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8. 暴露制御および保護措置

8-1. 管理パラメーター

化学名	管理濃度	許容濃度	
		日本産衛学会 (2009)	ACGIH (2009)
酢酸	未設定	10ppm、25mg/m^3	10ppm (TWA)、15ppm (STEL)

8-2. 適切な工学的管理方法

・ この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

8-3. 個人保護措置

・ 呼吸器の保護具 ： 適切な呼吸器保護具を着用すること。
・ 手の保護具 ： 適切な保護手袋を着用すること。
・ 眼の保護具 ： 適切な眼の保護具を着用すること。
・ 皮膚および身体の保護具 ： 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

・ 外観 ： 液体
・ 臭い ： 特異臭
・ 臭いの閾値 ： データなし
・ pH ： データなし
・ 融点/凝固点 ： データなし
・ 分解温度 ： データなし
・ 初留点と沸点範囲 ： データなし
・ 引火点 ： データなし
・ 蒸発速度 ： データなし
・ 火炎燃焼性 ： データなし
・ 爆発限界（上限/下限） ： 4.0vol%（下限）、19.9vol%（上限）
・ 蒸気圧（20℃） ： データなし
・ 蒸気密度 ： データなし
・ 相対密度 ： データなし
・ 溶解度 ： 本製品は水溶液
・ n-オクタノール/水分配係数 ： データなし
・ 自然発火温度 ： N/A
・ 分解温度 ： データなし
・ 粘度 ： データなし

10. 安定性及び反応性

10-1. 反応性

・ 危険な重合反応は起こらない。

10-2. 化学的安定性

・ 製品は推奨保存条件下で化学的に安定している。

10-3. 危険有害反応可能性

・ 情報なし。

10-4. 避けるべき条件

情報なし。

10-5. 混触禁止物質

情報なし。

10-6. 有害な分解生成物

・情報なし。

11. 有害性情報

11-1. 成分の健康有害性情報

11-1-1.酢酸

・急性毒性　：LD_{50} = 3,530mg/kg (rat, oral)

・皮膚刺激性　：ウサギあるいはモルモットを用いた試験（PATTY（5th, 2001）、ACGIH（2004））において、刺激性の程度はばく露の濃度と時間に依存し、特に50～80%以上の濃度では重度の熱傷と痂皮形成が観察されている。かつ、EU分類ではC;R35であることから、区分1とした。なお、pHは1.0M=2.4（Merck（14th, 2006））、である。

・眼刺激性　：ウサギ眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じた（ACGIH（2004））こと、別の試験で10%以上の濃度で永続的角膜損傷を伴う重度の刺激性を示した（IUCLID（2000））こと、ヒトで誤って眼に入れてしまった後直ちに洗浄したにも拘らず角膜混濁や虹彩炎を起こし、上皮の再生に何ヶ月も要し特に角膜混濁は永続的であったとの症例報告（PATTY（5th, 2001））もあり、区分1とした。

12. 環境影響情報

12-1. 成分の環境有害性情報

・混合物としての情報なし。

13. 廃棄上の注意

13-1. 廃棄方法

13-1. 廃棄方法

・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

13-2. 汚染容器および包装

・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

14-1. 国連番号

・1760

14-2. 国連出荷名

・CORROSIVE LIQUID, N.O.S.

14-3. 輸送時の危険性クラス

・8

14-4 副次危険

-

14-5. 容器等級

・III

14-6. 環境有害性

・情報なし。

14-7. 使用者のための特別予防措置

・輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

・重量物を上積みしない。

15. 適用法令

15-1. 適用法令対象成分

15-1-1. 酢酸

・労働安全衛生法：名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、政令番号：別表第9の176）

・労働安全衛生法：名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、政令番号：別表第9の176）

16. その他の情報

16-1. HMIS表示

・健康障害の危険	：3（非常に危険）
・火災の危険	：0（不燃）
・反応性	：0（安定）

16-2. NFPA表示

16-3. 参考ウェブサイト

・ 経済産業省
・ 厚生労働省
・（独）製品評価技術基盤機構

※ この製品安全データシートは、現時点で入手できる資料・文献等に基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅した訳ではありません。従いまして、取り扱いには十分ご注意ください。また、記載内容はあくまでも情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

製品安全データシート

改定日: 2021年4月1日

1. 化学物質等及び会社情報

1-1. 製品名称

・ Glassmilk

1-2. 製品番号

・ 1001404

1-3. 推奨用途及び使用上の制限

・ 試験研究用

1-4. 供給者の詳細

・ 会社名　　: 株式会社エムピーバイオジャパン
・ 住所　　: 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-7-14 セブンビル4F
・ 電話番号　　: 03-6667-0730
・ FAX番号　　: 03-6667-0733

1-5. 緊急電話番号

・ 03-6667-0730

2. 危険有害性の要約

2-1. 化学物質または混合物の分類

2-1-1. 物理化学的危険性

・ 金属腐食性物質　: 分類できない

2-1-2. 健康に対する有害性

・ 急性毒性(経口)　: 区分外
・ 急性毒性(経皮)　: 分類できない
・ 急性毒性(吸入:気体)　: 分類対象外
・ 急性毒性(吸入:蒸気)　: 分類できない
・ 急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)　: 分類できない
・ 皮膚腐食性・刺激性　: 区分外
・ 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性　: 区分2A
・ 呼吸器感作性　: 分類できない
・ 皮膚感作性　: 分類できない
・ 生殖細胞変異原性　: 分類できない
・ 発がん性　: 区分1A
・ 生殖毒性　: 分類できない
・ 授乳に対する影響　: 分類できない
・ 特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)　: 区分3(気道刺激性)
・ 特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)　: 区分1A(呼吸器、免疫系、腎臓)
・ 吸引性呼吸器有害性　: 分類対象外

2-1-3. 環境に対する有害性

・ 水生環境急性有害性　: 分類できない
・ 水生環境慢性有害性　: 分類できない
・ オゾン層への有害性　: 分類できない

【GHSラベル要素】

2-2. 注意書きを含むGHSラベル要素

2-2-1. 絵表示

・ 右に表示:

2-2-2. 注意喚起語

・ 警告

2-2-3. 危険有害性情報

・ 強い眼刺激 (H319)
・ 呼吸器への刺激のおそれ (H335)
・ 発がんのおそれ (H350)
　長期にわたる又は反復ばく露による免疫系, 呼吸器, 腎臓の障害 (H372)

2-2-4. 注意書き

1) 安全対策

・ 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)

・ 取扱後は手をよく洗うこと。(P264)
・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。(P270)
・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

2) 応急処置

・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
・ ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診断／手当を受けること。(P308+P313)
・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。(P312)
・ 気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。(P314)
・ 眼の刺激が続く場合: 医師の診断／手当てを受けること。(P337+P313)

3) 保管

・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403 + P233)
・ 施錠して保管すること。(P405)

4) 廃棄

・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

2-3. 結果として分類されないその他の危険有害性

情報なし。

3. 組成及び成分情報

3-1. 化学物質

本製品は単一化合物ではない。

3-2. 混合物

本製品は以下の成分を含有する混合物（水溶液）:

化学名	CAS RN	含有量 (w/w)
精製水	7732-18-5	30～50%
二酸化ケイ素	7631-86-9	30～50%
その他	-	＜40%

4. 応急措置

4-1. 必要な応急措置の説明

4-1-1. 飲み込んだ場合

・ 口をすすぐこと。
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-2. 皮膚に付着した場合

・ 皮膚を多量の水で洗うこと。
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-3. 吸入した場合

・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。

4-1-4. 眼に入った場合

・ 水で数分間注意深く洗うこと。
・ コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・ 医師の診断／手当てを受けること。

4-2. 最も重要な急性と発症の遅い症状/影響

・ 情報なし。

4-3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

・ 情報なし。

5. 火災時の措置

5-1. 適切な消火剤

・ 二酸化炭素、粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂類。

5-2. 化学品から生じる特定の危険性

・ 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
・ 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

5-3. 消防士用の特別な防具と予防措置

・ 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

6-1. 人への予防措置、防具、および応急処置法

・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

・関係者以外の立入りを禁止する。
・風上から作業する。

6-2. 環境上の予防措置

・環境中に放出してはならない。

6-3. 封じ込めと流出物洗浄の方法および用具

・粉塵が飛散しない方法で空容器に回収する。漏出した場所は水で洗い流す。
・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管

7-1. 安全な取扱のための予防措置

7-1-1. 技術的対策

・個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
・保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
・よく換気された場所で使用する。

7-1-2. 安全取扱い注意事項

・眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
・本製品に接触したり、これの吸入、飲み込みをしてはならない。
・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
・取扱い後はよく手を洗うこと。
・環境への放出を避けること。

7-2. 混触危険性を含む、安全な保管条件

7-2-1. 適切な保管条件

・15～30℃にて換気の良い場所で貯蔵すること。
・直射日光・高温・火気を避けること。
・施錠して貯蔵すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8. 暴露制御および保護措置

8-1. 管理パラメーター

化学名	管理濃度	許容濃度	
		日本産衛学会(2015)	ACGIH(2015) TLV
二酸化ケイ素	E = 3.0 / (1.19Q + 1) E: 管理濃度 (mg/m^3) Q: 当該粉じんの遊離ケイ酸含有率 (%)	0.03 mg/m^3	未設定

8-2. 適切な工学的管理方法

・この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

8-3. 個人保護措置

・呼吸器の保護具 ： 適切な呼吸器保護具を着用すること。
・手の保護具 ： 適切な保護手袋を着用すること。
・眼の保護具 ： 適切な眼の保護具を着用すること。
・皮膚および身体の保護具 ： 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

・外観 ： 懸濁液
・臭い ： データなし
・臭いの閾値 ： データなし
・pH ： データなし
・融点/凝固点 ： データなし
・分解温度 ： データなし
・初留点と沸点範囲 ： データなし
・引火点 ： N/A
・蒸発速度 ： データなし
・火炎燃焼性 ： データなし
・爆発限界（上限/下限） ： N/A
・蒸気圧（20℃） ： データなし
・蒸気密度 ： データなし
・相対密度 ： データなし
・溶解度 ： データなし
・n-オクタノール/水分配係数 ： データなし
・自然発火温度 ： データなし
・分解温度 ： データなし
・粘度 ： データなし

10. 安定性及び反応性

10-1. 反応性

・危険な重合反応は起こらない。

10-2. 化学的安定性

・製品は推奨保存条件下で化学的に安定している。

10-3. 危険有害反応可能性

・情報なし。

10-4. 避けるべき条件

情報なし。

10-5. 混触禁止物質

情報なし。

10-6. 有害な分解生成物

・情報なし。

11. 有害性情報

11-1. 成分の健康有害性情報

11-1-1.ヨウ化ナトリウム

・眼刺激性　：ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、沈降シリカ (CAS番号: 112926-00-8) 適用による刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカ (CAS番号: 112945-52-5) をウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜炎、軽度から中等度の結膜発赤、角膜混濁がみられたとの報告があるが、いずれの症状も回復性であったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。以上より区分2とした。

・発がん性　：本CAS番号が示す物質群はシリカ (SiO2) で、シリカの全形態が包含される (ECETOC JACC No. 51 (2006))。すなわち、本物質群には結晶質シリカが含まれ、その発がん性分類結果が適用可能と考えられることから、本項は区分1Aとした。

・特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）:
シリカゲル (CAS番号: 112926-00-8) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) から、区分3 (気道刺激性) とした。

・特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）:
ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶融シリカで金属ヒューム熱のような回帰熱の報告がある (ACGIH (7th, 2006))。したがって、区分1 (呼吸器、免疫系、腎臓) とした。

12. 環境影響情報

12-1. 成分の環境有害性情報

・混合物としての情報なし。

13. 廃棄上の注意

13-1. 廃棄方法

13-1. 廃棄方法

・廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

13-2. 汚染容器および包装

・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
・空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

14-1. 国連番号

・該当なし。

14-2. 使用者のための特別予防措置

・輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・重量物を上積みしない。

15. 適用法令

15-1. 適用法令対象成分

15-1-1. ヨウ化ナトリウム

・労働安全衛生法: 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、政令番号:別表第9の165の2）
・労働安全衛生法: 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、政令番号:別表第9の165の2）

16. その他の情報

16-1. HMIS表示

- 健康障害の危険　：0（通常）
- 火災の危険　：0（不燃）
- 反応性　：0（安定）

16-2. NFPA表示

16-3. 参考ウェブサイト

- 経済産業省
- 厚生労働省
- （独）製品評価技術基盤機構

※ この製品安全データシートは、現時点で入手できる資料・文献等に基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅した訳ではありません。従いまして、取り扱いには十分ご注意ください。また、記載内容はあくまでも情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

安全データシート

改定日: 2021年4月1日

1. 化学物質等および会社情報

1-1. 製品の特定

・製品名　　: New Wash
・カタログ番号　　: 1001402

1-2. 推奨用途および使用上の制限

・推奨用途　　: 試験研究用

1-3. 供給者の詳細

・会社名　　: 株式会社エムピーバイオジャパン
・住所　　: 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-7-14 セブンビル4F
・電話番号　　: 03-6667-0730
・FAX番号　　: 03-6667-0733

1-4. 緊急連絡先

・緊急時電話番号　　: 03-6667-0730

2. 危険有害性の要約

2-1. 化学物質または混合物の分類

2-1-1. 物理化学的危険性

・該当区分なし

2-1-2. 健康に対する有害性

・該当区分なし

2-1-3. 環境に対する有害性

・該当区分なし

※ 本製品はGHS分類における危険有害性物質ではない。

2-2. 注意書きを含むGHSラベル要素

2-2-1. 絵表示

・なし

2-2-2. 注意喚起語

・なし

2-2-3. 危険有害性情報

・なし

2-2-4. 注意書き

・なし

※ 本製品はGHS分類によるラベル添付の必要はない。

3. 組成および成分情報

3-1. 化学物質

・本製品は単一化合物ではない。

3-2. 混合物

・本製品は危険有害性のあるの成分を含有しない混合物である。

化学名	CAS RN	含有量 (w/w)
精製水	7732-18-5	70～75%
固形分	-	25～30%

4. 応急措置

4-1. 必要な応急措置の説明

4-1-1. 飲み込んだ場合

・口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
・気分が悪い時は、医師に連絡すること。

4-1-2. 皮膚に付着した場合

・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
・皮膚を多量の水で洗うこと。

4-1-3. 吸入した場合

・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
・気分が悪い時は、医師に連絡すること。

4-1-4. 眼に入った場合

・ 水で数分間注意深く洗うこと。
・ コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・ 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

4-2. 最も重要な急性と発症の遅い症状/影響

・ 情報なし。

4-3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

・ 情報なし。

5. 火災時の措置

5-1. 適切な消火剤

・ 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤。

5-2. 化学品から生じる特定の危険性

・ 情報なし。

5-3. 消防士用の特別な防具と予防措置

・ 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
・ 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
・ 移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。
・ 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
・ 風上から消火する。

6. 漏出時の措置

6-1. 人への予防措置、防具、および応急処置法

・ 作業者は適切な保護具を着用する。
・ 関係者以外の立入りを禁止する。

6-2. 環境上の予防措置

・ 下水溝、地表水と地下水から離して置く。

6-3. 封じ込めと流出物洗浄の方法および用具

・ 飛散しない方法で空容器に回収する。漏出した場所は水で洗い流す。

7. 取扱いおよび保管

7-1. 安全な取扱のための予防措置

7-1-1. 技術的対策

・ 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
・ よく換気された場所で使用する。

7-1-2. 安全取扱い注意事項

・ 皮膚、眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。
・ 本製品に接触したり、これの吸入、飲み込みをしてはならない。
・ 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
・ 取扱い後はよく手を洗うこと。

7-2. 混触危険性を含む、安全な保管条件

7-2-1. 適切な保管条件

・ 風通しの良い冷暗所にて保管すること。（保管温度: 15～30℃）

8. 暴露制御および保護措置

8-1. 管理パラメーター

・ 情報なし。

8-2. 適切な工学的管理方法

・ この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

8-3. 個人用保護衣 (PPE) などの個人保護措置

・ 呼吸器の保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用すること。
・ 手の保護具 : 適切な保護手袋を着用すること。
・ 眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用すること。
・ 皮膚および身体の保護具 : 防護服、安全靴又は安全ゴム長靴を着用する。

9. 物理的および化学的性質

・ 形状 : 液体
・ 臭い : データなし
・ 臭いの閾値 : データなし

・ pH　：データなし
・ 融点/凝固点　：データなし
・ 初留点と沸点範囲　：データなし
・ 引火点　：N/A
・ 蒸発速度　：データなし
・ 火炎燃焼性　：データなし
・ 爆発限界（上限/下限）　：N/A
・ 蒸気圧　：データなし
・ 蒸気密度　：データなし
・ 相対密度　：データなし
・ 溶解度　：本製品は水溶液
・ n-オクタノール／水分配係数　：データなし
・ 自然発火温度　：データなし
・ 分解温度　：データなし
・ 粘度　：データなし

10. 安定性および反応性

10-1. 反応性

・ 重合の危険性はなし。

10-2. 化学的安定性

・ 製品は化学的に安定している。

10-3. 危険有害反応可能性

・ 情報なし。

10-4. 避けるべき条件

・ 情報なし。

10-5. 混触禁止物質

・ 情報なし。

10-6. 有害な分解生成物

・ 情報なし。

11. 有害性情報

11-1. 毒物学的 な健康への影響

・ 混合物としての情報なし。

12. 環境影響情報

12-1. 生態毒性

・ 混合物としての情報なし。

12-2. 残留性と分解性

・ 混合物としての情報なし。

12-3. 生物蓄積性

・ 混合物としての情報なし。

12-4. 土壌中の移動性

・ 混合物としての情報なし。

13. 廃棄上の注意

13-1. 廃棄方法

・ 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

13-2. 汚染容器および包装

・ 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
・ 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

14-1. 国連番号

・ 該当なし。

14-2. 国連出荷名

・ 該当なし。

14-3. 輸送時の危険性クラス

・ 該当なし。

14-4. 容器等級

・ 該当なし。

14-5. 環境有害性

・ 情報なし。

14-6. 使用者のための特別予防措置

・ 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
・ 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

15-1. 適用法令対象成分

・ 該当なし。

16. その他の情報

16-1. HMIS表示

・	健康障害の危険	： 0（通常）
・	火災の危険	： 0（不燃）
・	反応性	： 0（安定）

16-2. NFPA表示

16-3. 参考ウェブサイト

・ 経済産業省
・ 厚生労働省
・（独）製品評価技術基盤機構

注）この製品安全データシートは、現時点で入手できる資料・文献等に基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅した訳ではありません。従いまして、取り扱いには十分ご注意ください。また、記載内容はあくまでも情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。